

科研費 26年度新規採択 22件

2026年度の科学研究費助成事業（科研費）の専修大学の採択件数は、新規と継続分を合わせて99件、直接経費1億3810万円。このうち新規採択は22件だった。新規採択は下表の通り。
独立行政法人日本学術振興会が4月、交付内容を発表した。

氏 名	所属・職名	研究課題名
学術変革領域研究（A）		
廣 川 和 花	文学部教授	「歴史的緊急事態」としてのCOVID-19のアーカイブ化に向けた指針の提案
基盤研究（B）		
澤 幸 祐	人間科学部教授	依存形成における習慣理論の再検証：ヒトと動物における比較研究
基盤研究（C）		
恒木 健太郎	経済学部教授	第二帝政期ドイツ語圏の貨幣・信用論の内生的要素と背景：有価証券法論との関連で
飯 考 行	法学部教授	損害補償の法社会学 ―日本とニュージーランド事故補償制度の遺族視点からの比較研究
佐 藤 暢	経営学部教授	海洋底高地に伏在する大陸地殻片の判別指標構築
譚 奕 飛	経営学部教授	IoTデータとデジタルツイン利活用によるビジネスプロセスマネジメントに関する研究
佐 藤 由 美	商学部教授	昭和戦前期の中等教育機関と台湾・朝鮮からの「留学生」
湯 山 智 教	商学部教授	暗号資産ショックの金融市場スピルオーバーと金融安定性
前 川 修 吾	商学部准教授	植物リボソームストレスにおけるリボソーム需給バランス仮説の検証
檜 垣 立 哉	文学部教授	ドゥルーズと哲学史 19世紀との関連を中心として
山 本 充	文学部教授	アルプスにおけるモビリティの増大に伴う現代的ブルリアクティビティの成立と意義
吉 田 国 光	文学部教授	場所と経験からみた小規模農業者による直売と生産活動に関する地理学的研究
松 嶋 祐 子	人間科学部准教授	グッド・ライブス・モデル（GLM）に基づいた社会内での性犯罪者処遇の拡充化
岡 村 り ら	国際コミュニケーション学部教授	放射性廃棄物最終処分場政策の国際比較研究―ドイツおよびスイスの事例を中心に―
ハーン 小路 恭子	国際コミュニケーション学部教授	情動のエコナラティブ―環境危機時代の文化テクストにおける新たな物語形式の創出
宇 都 榮 子	名誉教授	戦前期福田会育児院の財政を支えた寄付勸募と寄付文化の醸成―愛知育児院との比較―
若手研究		
渡 邊 有 希 乃	法学部准教授	行政DXの視座から見る公共入札手続きの電子化：システム共同化と行政業務
齋 藤 暁	法学部講師	実務慣行に基づく憲法規範の生成：〈現に妥当する憲法〉の可能性と限界
特別研究員奨励費		
栗 原 実 紗	日本学術振興会特別研究員	不眠から感情制御不全に至る計算論的過程の解明
三 浦 真 空	日本学術振興会特別研究員	サルトル倫理学を「実存的共同体」として再構成する：回心および承認によるアプローチ
米 田 恵	日本学術振興会特別研究員	カント法哲学とデリダ歓待論の接続と新たな法構想の創出へ向けた研究
研究成果公開促進費（学術図書）		
川 里 卓	日本学術振興会特別研究員	プログラム・ベルクソン

令和7年度 事業報告概要

学校法人専修大学では、「令和7年度事業報告書」を取りまとめましたので、その概要をご報告いたします。本報告書は、令和7年度に専修大学および石巻専修大学が展開した教育・研究等の成果を振り返るとともに、今後の発展に向けた方向性を示すものです。

学校法人専修大学では、「令和7年度事業報告書」を取りまとめましたので、その概要をご報告いたします。本報告書は、令和7年度に専修大学および石巻専修大学が展開した教育・研究等の成果を振り返るとともに、今後の発展に向けた方向性を示すものです。

学校法人としては、中期計画に基づき、財務の健全化と大学運営の効率化を推進しました。令和7年度は、スマートキャンパス構想の実現に向け、学生向けサービスの向上や事務業務の効率化に取り組むとともに、計画的な施設設備の整備を進めました。また、環境施策として、照明器具のLED化及び省エネルギー機器の導入を推進し、エネルギー効率の向上に取り組みました。

専修大学では、「教育力の向上」のもと、令和8年度から開始される新カリキュラムの導入に先立ち、科目配置や時間割編成、SI基礎科目の運営体制整備等の具体的な準備を加速させました。大学院教育においても、七つの履修証明プログラムを開設し、社会人の学び直し（リカレント教育）への対応を本格化させました。さらに、法科大学院では、法曹コース出身者向けの入試制度整備を通じて、法曹養成機能の更なる充実を図りました。

石巻専修大学では、「第2次中期ビジョン」（2025～2029年度）を始動し、内部質保証体制の強化、新カリキュラム導入に向けた準備、競争的研究資金の獲得促進、

「令和7年度事業報告書」の詳細は、大学のホームページをご覧ください。



【事業報告書】

有意義な夏期休暇を

学生部長 佐竹弘靖



夏期休暇期間（今年は8月1日～9月20日）には、サークルやゼミナールなどの合宿、国内外への旅行などを計画している人も多いことだろう。学生時代にしかできない体験を求めて積極的に活動することは、その後の人生に大きく影響するはずである。ぜひ夏期休暇を有効に利用し、有意義な時間を過ごしてほしい。ただ、毎年のように起こる水の事故。まさか自分とは過信せず十分に注意してほしい。

①過度な飲酒は命に関わる重大な事故につながるため「飲酒事故防止」につとめてほしい。特に、20歳未満の飲酒や飲酒の強要はやめていただきたい。
②近年、SNSやスマートフォンをきっかけとした金銭トラブルが多発している。「詐欺・マルチ商法（ネットワークビジネス）・闇バイト・SNSトラブル」には十分注意してほしい。
③大麻・覚醒剤などの違法薬物は使用だけでなく、所持も犯罪である。「違法薬物・危険ドラッグには近づかない」意志を強く持つてほしい。

最後に、学生生活のホームページに掲載されている事件・事故の諸注意を確認するとともに、緊急時には至急大学へ連絡してほしい。

＜夏期休暇中の連絡先＞

【生田キャンパス】 学生生活課 Tel 044-911-1267
守衛所 Tel 044-911-0504

【神田キャンパス】 学生生活課 Tel 03-3265-6824
守衛所 Tel 03-3265-5973

※学生生活課の窓口時間は10～16時 ※夜間・休日・祝日などの業務時間外は守衛所に連絡してください

善意のジレンマ

先日の講義で「囚人のジレンマ」について紹介した。利己的で合理的な個人がそれぞれ自分の利益を追求する結果として、双方にとって望ましいwin-winの全体最適に至らない、という話である。受講生のコメントに「相手のことを思ってやっても、良くない結果に陥ることも多い」とあった。確かにああと考えさせられた。
最近のハラスメント事例として、教員が学生に長文のメールを送ることが問題になる場合があると聞く。実は、私自身も比較的やってしまいがちなことである。私の感覚では、ゼミの指導教員から丁寧なメールをもらおうと、むしろ気にかけてもらえているようでうれしかった記憶がある。しかし、その感覚が誰にでも当てはまるわけではないだろう。

おそらく、長文のメール自体が直ちに悪いわけではないのであろう。問題は、それが相手のためを思っている行為であることが相手に伝わらず、負担や圧力として受け止められてしまう場合に生じるのだと思う。だからこそ、普段からお互いの認識を確認し、必要に応じて話し合える関係をつくっておくことが大切になる。
囚人のジレンマのような状況では、win-winの実現は簡単ではないかもしれない。人同士の関係なので、ときには感情的な対立もあるだろう。しかし、思いやりがある中で起きるすれ違いはできるだけ避けたいものである。学生だけでなく、同僚の先生方や職員の方々とも、日ごろから丁寧なコミュニケーションを心がけていきたい。
（キャンパス・ハラスメント対策室員 小川 博雅）

キャンパス・ハラスメント対策室

TEL：044-900-7858
E-mail：camhara@acc.senshu-u.ac.jp

生成AIと言葉の関係性を話す星野さん



5月21日

生成AIと言葉の関係性学ぶ

英語英米文学科 特別総合講義

文学部英語英米文学科の「特別総合講義」を担当する

渡邊真理子教授（では、文学、言語学、芸術など多角的な切り口から人間の感性や知の最先端に触れ、世界を読み解く力を身につける。各分野の専門家が講師を務めるオムニバース形式の授業で、今年度のテーマは「今を生きる人文学―知で世界をデザインし直す」。

は、辞書編集のスペシャリストである（株）研究社の星野龍さんを招き、「AIと言葉の意味」と題した講義を行った。星野さんは、生成AIが文章を作成できる根幹として分布意味論を紹介。「AIは言葉の意味を理解しているわけではなく、言葉の意味が生じる場をつくっている」と解説した。

計 報

須東朋広氏（すとう・ともひろ）商学部特任教授
6月11日、58歳で死去。2023年入職。主な担当はキャリア入門。